

平成 26 年度

川崎市立中学校 学習診断テスト 英語科

誤答分析と学習指導上の考察

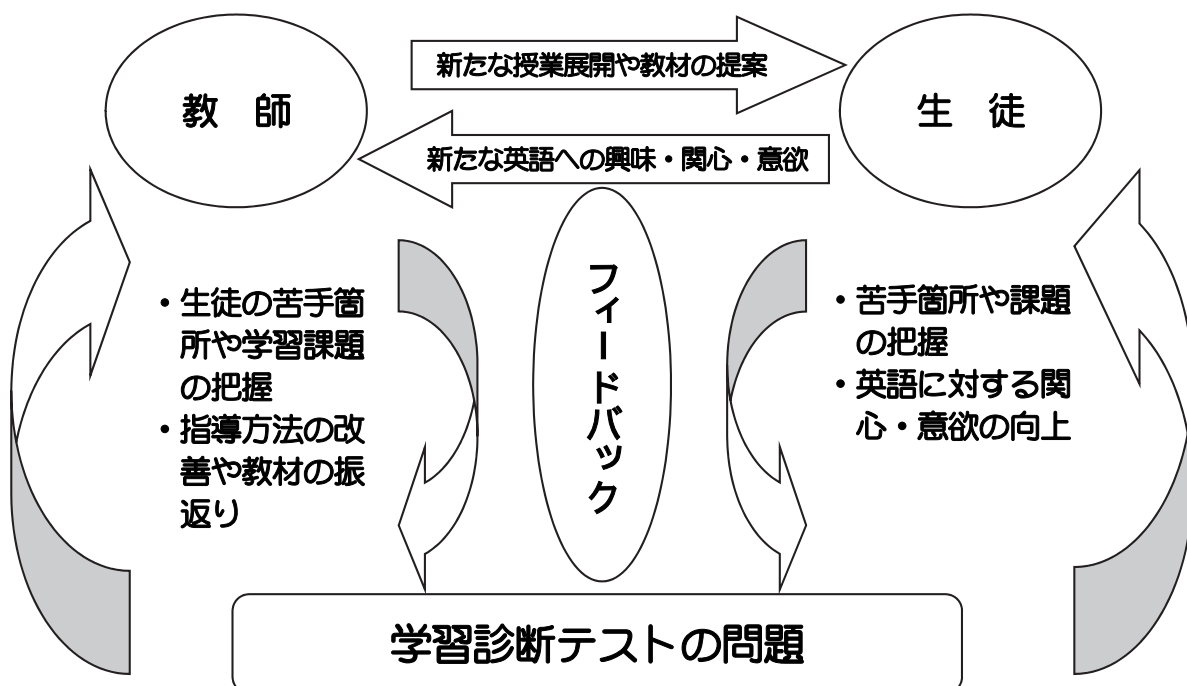
川崎市教育委員会
川崎市立中学校長会
英語科調査委員会

英 語

I. 作成方針と構成

1. 作問にあたって

- (1) 学習診断テストの目的・主旨にそって、学習指導要領に示されている各観点の基本的な事項について、10月末までの学習の定着状況が把握できるよう、出題の範囲やバランスを十分に考慮して問題を作成した。
- (2) 基礎的・基本的な知識の理解状況を幅広く診断するため、問題の形式や配列を工夫して作問した。
- (3) 思考力・判断力・表現力等の能力を総合的に判断できるように工夫して作問した。
- (4) 共通の言語材料を検討し、より公平に診断できる標準的なテストの作成を目指した。
- (5) 聞き取りテストでは、音声の聞き取り能力とともに、より自然な英語が聞き取れるかどうかも診断できるように工夫した。また、聞き取った内容を日本語で記述する問題を新たに取り入れ、理解の能力に加え表現の能力も判断できるようにした。
- (6) 表現の能力については、実際のコミュニケーションの場面を設定した条件英作文や部分英作文形式の問題を出題し、観点のねらいをより明確にした。



2. 出題のねらい[英語]

	1年生	2年生	3年生
問1	●会話文の組立て 絵を見て、場面にあった適切な応答を選択することができる。	●会話文の組立て 絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	●会話文の組立て 絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。
問2	●会話文の組立て 絵を見て、場面や状況を理解し、それぞれの質問に対して、適切な答えを選択することができる。	●語彙の知識 英文を読みとり、日本文にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	●語彙の知識 英文を読みとり、日本文にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。
問3	●語彙の知識 絵を見て、場面や状況を理解し、適切な代名詞を選択することができる。	●語彙の知識 会話文の内容を読みとり、それにあてはまる適切な語句を選択することができる。	●語彙の知識 場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。
問4	●語彙の知識 場面や状況に合わせて文脈を読みとって、適切な動詞を選択することができる。	●単語の並べ替え それぞれの語の意味と性質をつかみ日本語に合うように文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	●単語の並べ替え それぞれの語の意味と性質をつかみ日本語に合うように文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。
問5	●語彙の知識 文の応答や日本語から判断し、その文に合った単語を最初に与えられた文字から判断し、正しい綴りで書くことができる。	●会話文の組立て 会話の流れに注意しながら、その内容を十分に理解し、その内容のまとめを適切に表現できる。	●会話文の組立て 会話の流れに注意しながら、その内容を十分に理解し、その内容のまとめを適切に表現できる。
問6	●単語の並べ替え それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。慣用的な言い方による語順の違いを理解できる。	●説明や対話文の読み取り 説明文や対話文やメールなどから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する文や絵やグラフを選ぶことができる。	●説明や対話文の読み取り 説明文やメモの文章などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する文や絵やグラフを選ぶことができる。
問7	●説明や対話文の読み取り 会話文を読みとり、適切な絵を選ぶことができる。	●長い文章の読み取り 文章の内容を読みとることができる。文章の流れから、文章の概要を理解したり、話者の意図を読みとったりすることができる。	●長い文章の読み取り 文章の内容を読みとることができる。文章の流れから、文章の概要を理解したり、話者の意図を読みとったりすることができる。
問8	●長い文章の読み取り 会話文の流れから適切な語を選んだり、話者の意図を読みとったりすることができる。	●英作文 与えられた場面の中で、適切な表現を内容が相手に伝わるように、正しく書くことができる。	●英作文 与えられた場面の中で、適切な表現を内容が相手に伝わるように、正しく書くことができる。
問9	●英作文 与えられた場面の中で、適切な表現を内容が相手に伝わるように、正しく書くことができる。	●英作文 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿ってつながりのある文章を、正しく書くことができる。	●英作文 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿ってつながりのある文章を、正しく書くことができる。
問10	●英作文 絵を見て、場面や状況を理解し、与えられた条件を満たし、ねらいに沿って文章を正しく書くことができる。		
放送1	●リスニング（絵を選ぶ） 短い文章を聞きとり、その内容を把握し適切な絵を選択することができる。	●リスニング（絵を選ぶ） 短い会話文を聞きとり、その内容を把握して、適切な絵を選択することができる。	●リスニング（絵を選ぶ） 短い会話文を聞き取り、その内容を表す絵を選択することができる。
放送2	●リスニング（絵を選ぶ） 対話を聞き、その場面や状況にあった絵を選択することができる。	●リスニング（会話内容） 短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。	●リスニング（会話内容） 短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。
放送3	●リスニング（会話内容） 対話を聞き、その対話の流れから、次に続く適切な表現を選択することができる。	●リスニング（絵を選ぶ） 会話文を聞き、その会話内容に対する質問の答えとなる適切な絵を選択することができる。	●リスニング（会話内容） 会話文の内容を理解し、その内容に対する質問に適切に選択することができる。
放送4	●リスニング（会話内容） まとまった英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	●リスニング（会話内容） まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	●リスニング（会話内容） まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。

Ⅱ. 第1学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率[英語第1学年]

問題番号	観点			問題の内容	出題のねらい	正答率(%)		
	大問	小問	考 技 知				無答率	
1	a		◎	会話文の組立て	絵を見て、場面にあった適切な応答を選択することができる。		99	0
	b		◎				78	0
	c		◎				96	1
2	a		◎	会話文の組立て	絵を見て、場面や状況を理解し、それぞれの質問に対して、適切な答えを選択することができる。		67	2
	b		◎				83	2
	c		◎				49	2
3	①		◎	語彙の知識	絵を見て、場面や状況を理解し、適切な代名詞を選択することができる。		70	1
	②		◎				78	1
	③		◎				85	1
4	a		◎	語彙の知識	場面や状況に合わせて文脈を読みとって、適切な動詞を選択することができる。		67	3
	b		◎				88	2
	c		◎				46	2
5	a		◎	語彙の知識	文の応答や日本語から判断し、その文に合った単語を最初に与えられた文字から判断し、正しい綴りで書くことができる。		88	5
	b		◎				32	5
	c		◎				63	7
	d		◎				42	19
6	a		◎	単語の並べ替え	それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。 慣用的な言い方による語順の違いを理解できる。		61	6
	b		◎				72	5
	c		◎				72	7
	d		◎				42	6
7	a		◎	説明や対話文の読み取り	会話文を読みとり、適切な絵を選ぶことができる。		80	2
	b		◎				59	2
	c		◎				68	2
8	A		◎	長い文章の読み取り	会話文の流れから適切な語を選んだり、話者の意図を読みとったりすることができる。		56	5
	B		◎				78	5
	C		◎				85	4
	D		◎				81	7
	E		◎				63	19
	E		◎				75	19
9	①	◎	○	英作文	与えられた場面の中で、適切な表現を内容が相手に伝わるように、正しく書くことができる。		45	14
	②	◎	○				40	15
10		◎		英作文	絵を見て、場面や状況を理解し、与えられた条件を満たし、ねらいに沿って文章を正しく書くことができる。		68	24
放送1	a		◎	リスニング (絵を選ぶ)	短い文章を聞きとり、その内容を把握し適切な絵を選択することができる。		98	1
	b		◎				96	1
	c		◎				95	1
放送2	a		◎	リスニング (絵を選ぶ)	対話を聞き、その場面や状況にあった絵を選択することができる。		98	1
	b		◎				98	1
	c		◎				98	1
放送3	a		◎	リスニング (会話内容)	対話を聞き、その対話の流れから、次に続く適切な表現を選択することができる。		92	1
	b		◎				67	1
	c		◎				71	3
放送4	①		◎	リスニング (会話内容)	まとまった英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。		97	2
	②		◎				88	4
	③		◎				79	4
	④		◎				97	1

◎…主たる観点 ○…従たる観点

2. 主な誤答と分析[英語第1学年]

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
1	a	1	99	0			絵を見て、場面に合った応答を選択することは、概ねできていた。 選択肢だけ読んで答えるのではなく、絵と会話文の両方を理解する力を身につけさせたい。
	b	1	78	0	3	18	
	c	2	96	1	1	4	
2	a	3	67	2	4 2 1	17 9 5	be 動詞を使った疑問文に一般動詞で答える誤答は少なかったが、絵が表している状況を正確に理解することができず、誤答となる例が多かった。 疑問詞を使った疑問文の答え方については、普段のコミュニケーション活動の中で自然に定着を図りたい。
	b	2	83	2	1	9	
	c	1	49	2	2 3 4	36 7 6	
3	①	1	70	1	3	27	①では、前文の会話文を理解せず答えたため、he を答える誤答が目立った。会話の流れを理解し、適切な代名詞を選べるように指導したい。
	②	3	78	1	1	16	
	③	2	85	1	1 3	8 6	
4	a	7	67	3	1	20	否定文や三人称単数現在形の学習が定着していない。否定文の作り方や単語の意味など基本的な事柄について、繰り返し学習していく必要がある。 英語での簡単なやりとりをする中で、会話の流れを理解させたい。
	b	3	88	2	4 7	3 3	
	c	8	46	2	5 2 3	25 13 6	
5	a	six	88	5			発音はできるが綴ることができないと思われる誤答が目立つ。特に、l と r、v と b の区別をつけることが難しい。単語を書く練習することはもちろん、発音の違いを意識させながら練習することが必要である。
	b	walk	32	5	work wark	21 13	
	c	friend	63	7	friendo fulend fliend	3	
	d	library	42	19	livrary	5	
6	a	2431	61	6	2341 1234,1324,3241	6 3	a では、冠詞の使い方の誤りのための誤答が目立った。 dでは、What + 名詞の疑問文については、直後に名詞がこない誤答が多くみられた。疑問詞 + 名詞の表現についても理解、定着を図りたい。
	b	2413	72	5	1243 1324	8 5	
	c	3241	72	7	2341 3214 2314	14 3 2	
	d	3142	42	6	1423 1432	32 3	
7	a	2	80	2	4	14	aでは、数字を読み取り、内容を理解することが概ねできていた。 bでは、代名詞の she が誰を指しているのかを理解した上で、読み進めていくことが必要である。
	b	1	59	2	3 2 4	17 14 8	
	c	3	68	2	2 1 4	16 9 5	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
8	A	4	56	5	3 2	24 9	<p>昨年から英問英答の間 A を設けているが、昨年同様、他の問いに比べて正答率は低い。</p> <p>英文の内容把握が正確にできるよう、まとまった英文を読む機会を設け長文に慣れさせたい。</p> <p>長文の一部の内容をまとめる問 D は、今年度の新しい出題形式であるが、概ね理解できていた。</p>
	B	3	78	5	1 2	8 7	
	C	1	85	4	2 3	4 4	
	D	4	81	7	3 1	5 4	
	E	2 5	63 75	19	4 6 3	16 12 10	
9	①	am from	45	14	live in from the from from in	5 9 7 2	<p>①は、be 動詞が書かれていない誤答が多かった。授業で会話練習をする場合も、文字を意識して取り組ませたい。</p> <p>細かい部分にも注目させながら書き取り練習を行う必要がある。</p>
	②	on Mondays	40	15	Monday on monday	8 6	
10		Saki plays tennis. Ryo plays baseball.	68	24	Saki play tennis. Saki is play(s) tennis. Ryo plays the baseball. Ms.White reads novel.	37 19 8 7	<p>絵に描写されていることを自由に記述する問題を新たに取り入れた。既習の単語を用いて、自分なりに表現しようとする生徒が多い中で、三人称単数現在のsが抜けたり、be 動詞と一般動詞を同時に使用したり、冠詞の用法を間違えたりする誤答が多かった。</p> <p>授業で英文を書く機会を継続的に設け、書く力をつけさせたい。</p>
放1	a	1	98	1			<p>基本的な音声の英語情報を聞き取る力は概ね定着している。</p> <p>日頃の授業の中で、英語を聞き取る機会をさらに設けたい。</p>
	b	4	96	1			
	c	2	95	1	4	3	
放2	a	6	98	1	3	1	<p>対話を聞き、その場面や状況にあった絵を選択することは、概ねできていた。</p>
	b	2	98	1	4	1	
	c	1	98	1	5	1	
放3	a	2	92	1	3	4	<p>普段使う簡単な会話のフレーズは概ね定着している。</p> <p>数字(-teen と-ty)の聞き間違いについては、意識して使い分けができるように指導したい。</p>
	b	3	67	1	2 4	14 14	
	c	3	71	3	4 2	18 6	
放4	①	掃除	97	2			<p>まとまった英文を聞き、情報を整理することは、概ねできていた。</p> <p>曜日の誤答が様々だったため、日頃のクラスルームイングリッシュの中で定着をはかりたい。</p>
	②	5	88	4	8	3	
	③	金	79	4	土曜日 日曜日 火曜日、水曜日	7 3 3	
	④	音楽	97	1			

Ⅲ. 第2学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率[英語第2学年]

問題番号		観点			問題の内容	出題のねらい	正答率(%)		無答率
大問	小問	考	技	知					
1	a		◎		会話文の組立て	絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。		94	1
	b		◎					68	1
	c		◎					90	1
2	①			◎	語彙の知識	英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。		47	26
	②			◎				68	15
	③			◎				52	18
	④			◎				68	11
3	a			◎	語彙の知識	会話文の内容を読みとり、それにあてはまる適切な語句を選択することができる。		69	1
	b			◎				71	1
	c			◎				63	1
	d			◎				74	1
	e			◎				61	1
4	a			◎	単語の並べ替え	それぞれの語の意味と性質をつかみ日本語に合うように文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。		26	2
	b			◎				79	2
	c			◎				33	2
	d			◎				45	3
	e			◎				9	3
5	a		◎		会話文の組立て	会話の流れに注意しながら、その内容を十分に理解し、その内容のまとめを適切に表現できる。		43	1
	b		◎					17	1
	c		◎					43	2
6	a		◎		説明や会話文の読み取り	説明文や対話文やメールなどから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する文や絵やグラフを選ぶことができる。		41	2
	b		◎					61	3
	c		◎					53	3
7	A		◎		長い文章の読み取り	文章の内容を読みとることができる。文章の流れから、文章の概要を理解したり、話者の意図を読みとったりすることができる。		62	2
	B		◎					70	2
	C		◎					41	3
	D		◎					42	3
	E		◎					35	5
	F		◎					56	6
8	①	◎		○	英作文	与えられた場面の中で、適切な表現を内容が相手に伝わるように、正しく書くことができる。		12	42
	②	◎		○				13	29
9		◎				与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿ってつながりのある文章を、正しく書くことができる。		17	24
放送1	a		◎		リスニング (絵を選ぶ)	短い会話文を聞きとり、その内容を把握して、適切な絵を選択することができる。		64	1
	b		◎					78	1
放送2	a		◎		リスニング (会話内容)	短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。		81	1
	b		◎					59	1
放送3	a		◎		リスニング (絵を選ぶ)	会話文を聞き、その会話内容に対する質問の答えとなる適切な絵を選択することができる。		68	1
	b		◎					65	1
放送4	①		◎		リスニング (会話内容)	まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。		33	30
	②		◎					35	19

◎…主たる観点 ○…従たる観点

2. 主な誤答と分析[英語第2学年]

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
1	a	2	94	1	1	6	絵の状況を理解し、場面に対応する適切な表現を選ぶことは、概ねできていた。 bの適切な前置詞を選ぶ問題の正答率が他と比べて低い。場所を表す前置詞の使い方の定着を図りたい。
	b	3	68	1	1	23	
	c	2	90	1	1	7	
2	①	learned	47	26	looking leraund	3 2	意味としては理解できているが、それを正しく綴ることができていなかった。 無答率をみても、英単語の定着率が低い。日頃から英単語の練習を取り入れたり、家庭学習に繋がる活動を取り入れたりして、英単語の定着を図りたい。
	②	right	68	15			
	③	important	52	18	inportant	14	
	④	must	68	11	mast many	4 4	
3	a	1	69	1	2	14	a ではwhoseとwhoの用法の違いやその他の疑問詞表現の区別を、授業内のQ andAなどの活動で身につけさせたい。 b、dでは、場面にあった表現が概ね定着している。 c、eでは、前後の意味の読み取りや動詞、助動詞の意味の定着が不十分なための誤答が多い。特に助動詞に関しては、授業の中で依頼、勧誘、提案などの表現を使用する機会を積極的に設けたり、基本的な文を繰り返し指導したりすることで定着を図りたい。
	b	4	71	1	2	11	
	c	2	63	1	3	14	
	d	4	74	1	3	13	
	e	3	61	1	2	17	
4	a	3241	26	2	3214 2314	21 20	a では there is の構文は理解しているが、疑問文になっていることに気づかないための誤答が目立った。 c では I think (that)の定着が低い。自分の意見をいう場面などで多く使わせ定着を図りたい。 e では what kind of + 名詞の文に慣れていないための誤答が多かった。疑問詞を使った文の定着を図りたい。
	b	2413	79	2	1243 1324	6 5	
	c	2134	33	2	3421	25	
	d	1324	45	3	3241	20	
	e	4231	9	3	2314	61	
5	a	A:2 B:3	43	1	A:1 B:2 A:1 B:3	17 17	a では、stay up late という表現を導き出せない誤答が多かった。 bでは A に goes を入れる誤答が多かった。短い内容のものでも、授業の中で英文を読む時間を多く設け、会話の流れを理解できるよう指導したい。
	b	A:3 B:2	17	1	A:1 B:3	21	
	c	A:2 B:1	43	2	A:3 B:2	29	
6	a	2	41	2	1 4	18 18	a、cでは情報が多かったり複雑であったりしたため、正答率が低かったと思われる。 絵や表を参考にしながら英文の情報を整理し、読み取る活動を授業内に設け、定着を図りたい。
	b	2	61	3	4 3	16 15	
	c	4	53	3	3	25	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
7	A	4	62	2	1	17	<p>文章内の登場人物が4名おり、各々が話した内容を整理して読む力が必要であったため、全体的に正答率が低かったと思われる。</p> <p>特に、Dの英問英答、EやFの選択肢を英文にした問題の正答率の低さが目立った。日本語を介さずに英文を理解する力を身につけさせたい。</p> <p>そのために教科書やそれ以外のまとまりのある英文を意識的に利用し、長い文章を英語で読み取る機会を授業で増やしたい。</p>
	B	3	70	2	1	12	
	C	4	41	3	1	39	
	D	3	42	3	2	22	
	E	1	35	5	3	27	
	F	2 4	56 32	6 6	5 6	20 12	
8	①	I was lost	12	42	I'm lost.	6	<p>両問とも正答率が低く、無答も多かった。英文で日記を書くなど、表現活動の機会を増やし、既習表現を繰り返し使用できる場面を設定し、定着を図りたい。</p>
	②	will be kind	13	29	will kind of	6	
9	<p>Soccer is important for me.</p> <p>I play soccer every day.</p> <p>I will play soccer at high school, too.</p>		17	24			<p>一文でも何かを書こうとする意欲はみられたが正答率は全体的に低かった。</p> <p>複数形や三人称単数現在、所有格の間違いによる誤答が多かった。また、綴りの間違いも多くみられた。</p> <p>既習事項を用いてまとまった英文を書く時間を多く確保したい。</p>
放1	a	4	64	1	1	24	<p>bは概ね理解できていたが、aの正答率が若干低かった。場所を表す前置詞の意味の定着を図りたい。</p>
	b	4	78	1	3	15	
放2	a	2	81	1	3	9	<p>bでは Shall I ~? に対する答え方が定着していなかった。助動詞を使った会話の練習に取り組み、答え方も含めて定着を図りたい。</p>
	b	3	59	1	4	30	
放3	a	1	68	1	3	13	<p>aでは will や tomorrow、bでは left や right を聞き取れなかったことによる誤答が目立った。ポイントとなる語を聞き取って、会話の流れをつかむ力を育てたい。</p>
	b	2	65	1	4	18	
放4	①	電話は使用禁止	33	30	席を立たない 前に物をいれない	9 5	<p>正答率が 30% 台と低く、まとまった英文の要点を押さえながら聞き取ることが出来ていなかった。リスニングの活動をより多く取り入れ、英文の内容の情報を整理して聞き取る力を育てたい。</p>
	②	30分延びる	35	19	40分遅れる 50分になった	5 4	

IV. 第3学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率[英語第3学年]

問題番号		観点			問題の内容	出題のねらい	正答率(%)		無答率
大問	小問	考	技	知					
1	a	◎			会話文の組立て	絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	83	0	
	b	◎					95	0	
	c	◎					96	0	
2	①			◎	語彙の知識	英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	58	18	
	②			◎			44	9	
	③			◎			41	21	
3	a			◎	語彙の知識	場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	74	0	
	b			◎			82	0	
	c			◎			76	0	
	d			◎			81	0	
4	a			◎	単語の並べ替え	それぞれの語の意味と性質をつかみ日本語に合うように文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	69	1	
	b			◎			74	1	
	c			◎			54	1	
	d			◎			44	1	
	e			◎			68	1	
5	a			◎	会話文の組立て	会話の流れに注意しながら、その内容を十分に理解し、その内容のまとめを適切に表現できる。	76	2	
	b			◎			52	1	
	c			◎			53	1	
	d			◎			61	1	
6	a			◎	説明や会話文の読み取り	説明文やメモの文章などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する文やグラフを選ぶことができる。	79	0	
	b			◎			57	0	
	c			◎			62	0	
7	A			◎	長い文章の読み取り	文章の内容を読みとることができる。文章の流れから、文章の概要を理解したり、話者の意図を読みとったりすることができる。	71	0	
	B			◎			77	1	
	C			◎			45	1	
	D			◎			64	1	
	E			◎			55	1	
	F			◎			52	1	
	G			◎			59	2	
	G			◎			52		
8	①	◎		○	英作文	与えられた場面の中で、適切な表現を内容が相手に伝わるように、正しく書くことができる。	20	21	
	②	◎		○			17	19	
9		◎			英作文	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿ってつながりのある文章を、正しく書くことができる。	12	30	
放送1	a			◎	リスニング (絵を選ぶ)	短い会話文を聞き取り、その内容を表す絵を選択することができる。	98	0	
	b			◎			100	0	
放送2	a			◎	リスニング (会話内容)	短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。	74	0	
	b			◎			72	0	
放送3	a			◎	リスニング (会話内容)	会話文の内容を理解し、その内容に対する質問に適切に選択することができる。	72	0	
	b			◎			82	0	
放送4	①			◎	リスニング (会話内容)	まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	31	19	
	②			◎			11	21	

◎…主たる観点 ○…従たる観点

2. 主な誤答と分析[英語第3学年]

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
1	a	1	83	0	2	13	絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な表現を選択することは概ねできている。今後も自然な会話の流れを重視した指導の継続がのぞまれる。
	b	3	95	0	1	3	
	c	2	96	0	1	4	
2	①	practiced/ practised	58	18	practices pracutice	3 2	意味としては理解できているが、それを正しく綴ることができていない。また、動詞や名詞を状況に合わせて活用させることができていない。 現在完了形、過去形、複数形など、様々な使用場面を通して定着を図りたい。
	②	sang	44	9	sing song	36 6	
	③	faces	41	21	faice feice	13 4	
3	a	2	74	0	1 4	13 11	全体的に正答率が高かった。 a では、something to drink の不定詞の形容詞的用法が身につけていないための誤答が目立った。 c では、won' t do を選択する誤答が目立った。会話の流れで未来形を選択してしまったためと思われる。 会話の流れに合った時制の表現を使うことができる力を身につけさせたい。
	b	4	82	0	2 3	8 7	
	c	1	76	0	3 2 4	11 7 7	
	d	3	81	0	4 1	11 6	
4	a	4132	69	1	4123 4231 3241	5 3 3	a では、比較級の er than の基本文を作れていない生徒もいるので、英文の基本構造を定着させたい。 c では、an interesting book written in English のように分詞による後置修飾の理解が不十分なための誤答が目立った。日本語の語順との違いを理解させたい。 d では、It is 形容詞 (for 人) to ~. の文型の理解が不十分なための誤答が目立った。語の意味と文の構造をつかみ、文を組み立てる力を身につけさせたい。
	b	2431	74	1	2143 2314	4 3	
	c	4213	54	1	4123 4321	15 6	
	d	3142	44	1	2314 2413	9 7	
	e	2143	68	1	2134 2431	14 4	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
5	a	A:2 B:1	76	2	A:3 B:1 A:3 B:2	9 8	<p>今年度から会話を読んでその内容を要約する英文に書きなおす問題にした。会話の内容全体を通して理解していないと解答が導き出せないものである。</p> <p>aは、比較的正答率が高かった。</p> <p>bでは、会話文自体は比較的短いですが、叔父の子供たちが cousins にあたることを理解していないための誤答が目立った。</p> <p>cは、会話をしている人同士が提案や相談をしており、その内容を十分に整理できていないための誤答が目立った。</p> <p>英語の情報を適切に整理する力が求められる。そのために教科書の本文などで得た情報を生徒自身が言い換えたり、まとめたりする活動を授業で展開していきたい。</p>
	b	A:1 B:3	52	1	A:1 B:2 A:2 B:1	12 7	
	c	A:2 B:2	53	1	A:1 B:2 A:3 B:2	14 9	
	d	A:2 B:3	61	1	A:2 B:1 A:3 B:3	10 6	
6	a	3	79	0	2	15	<p>bは、正答率が6割未満であった。英文を読み取り、その内容に合った写真を選ぶような活動を授業で取り入れたい。</p> <p>cは、全体の内容をしっかり読まない適切なグラフを選べない問題である。絵や表を参考にしながら、英文の情報を読み取る活動を授業内に設け、定着を図りたい。</p>
	b	2	57	0	3 4	30 9	
	c	4	62	0	1 2	19 13	
7	A	4	71	0	3 2 1	14 10 5	<p>昨年度よりも文章が長く、問題数も増えたが、比較的正答率は高かった。</p> <p>Cでは、正答率の低さが目立った。本文の空欄の中に入る英文を選ぶ問題だが、空欄の前後の内容や本文の全体の流れを十分に理解していないためと思われる。</p> <p>Dの誤答2は、会話の内容から話者の意図を読みとることが不十分だったためと思われる。</p> <p>文章の内容を読みとり、概要や話者の意図を理解する力を身につけさせたい。そのために、教科書などのまとまりのある英文の題材を利用し、長い文章を英語で読みとる機会を授業で増やしたい。</p> <p>Fでは、選択肢の細かい部分の違いに気づかなかつたための誤答が目立った。</p>
	B	2	77	1	1 3 4	11 6 5	
	C	1	45	1	3 2 4	22 16 16	
	D	3	64	1	2 1 4	26 7 2	
	E	3	55	1	4 1 2	18 16 10	
	F	2	52	1	3 4 1	18 16 13	
	G	4 6	59 52	2	5 3	34 24	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
8	①	one of the biggest	20	21	the most biggest the biggest など	3 3	全体的に正答率が低く、無答も多かった。既習表現を繰り返し使用できる場面を設定して定着を図りたい。
	②	Many people wearing	17	19	many people (to) wear a lot of people	5 4	
9		My school is in Kawasaki. There are about nine hundred students in my school. It was built in 1982.	12	30		58	すべて正答した割合が 12%で、無答も 30%だった。友だちの依頼に答える問題だったが、つながりのある英文を書くことが難しかったと思われる。また、誤答の中には、学校を紹介するという問題の意図を理解していないものが多かった。題材を設定し、まとまりのある英作文を書かせる時間を多く確保し、その内容にふさわしい英文を書く力の育成を図りたい。
放1	a	4	98	0			短い会話の聞きとりについては、概ね理解できていた。
	b	2	100	0			
放2	a	3	74	0	2 4	12 9	どちらも正答率が高く、概ね理解できていた。 bでは、How long～?の表現を理解していないための誤答が目立った。使用場면을意図的に設けた授業展開をしていきたい。
	b	1	72	0	3 2	14 9	
放3	a	2	72	0	1 3	16 12	どちらも正答率が高く、概ね理解できていた。 さまざまな場面のやりとりを聞く活動を増やし、情報を正しく聞きとる力を伸ばしたい。
	b	3	82	0	2 1	13 4	
放4	①	鳥が病気になる	31	19	病気になる 鳥が集まってくる	7 9	正答率が 31%と 11%でどちらも低く、無答も 2割前後と多かった。特に b では英文の内容を聞かずに、ヒントの日本語から答えを推測したための誤答が目立った。 英文の内容の情報を整理して聞き取る活動を定期的に取り入れたい。
	②	料理をしてはいけない	11	21	ゴミを捨てないでください 掃除をしてください ご協力お願いします	33 5 6	

V. 全体の考察と今後に向けて[英語]

1. 全体の考察

今年度も診断テストの目的・趣旨を踏まえて問題を作成した。また、改訂学習指導要領の全面実施から2年が経過したことで、より一層「基礎的な知識・及び技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」に着目した作問を行った。加えて、コミュニケーション能力を総合的に育成するため、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮することにも留意した。

平成18年度以来、工夫・改善しながら出題してきた英作文問題を、思考力・判断力を駆使する表現の問題であると考え、採点基準の難しさもあるが、生徒の表現の能力を知るために単純な和文英訳にならない形式で出題した。外国語表現の能力に関する問題への配点を増やすことで、全体の問題数を減らし、外国語表現の能力に関する問題に取り組む時間を増やすことができたのではないかと考える。文章の内容を理解する問題では、なるべく平易な文章を使用し、文章量を多くした。10行程度の文章を丁寧に読む問題と長文の概要を把握する問題と出題した。その他の問題も、より自然な実際のコミュニケーションの場面を意識した作問を心がけた。観点別評価をより明確にするため、外国語理解の能力に関する長文読解問題では、英文を読み、質問に英語で答える統合的な言語活動に関する問題を作成した。外国語表現の能力に関する問題では、内容を重視する採点を、言語や文化に関する知識・理解に関する問題では、文字や文法を重視するような採点基準を設定した。アンケートでは、毎年英作文問題の採点基準についてご意見をいただき、各校での授業の実態に合わせた採点、生徒の書く意欲を伸ばす採点をお願いしたい。今後より妥当性が高く、個々の生徒の各観点の力を判断できるような作問を進めていきたい。

改訂学習指導要領実施により週4時間という時数が確保された。その利点を生かし、「聞く」「話す」「読む」「書く」といった4技能のバランスを考えた授業デザインの工夫を継続させたい。学年が上がるにつれて英作文の無答率が上がっているため、特に書く能力を高める活動を積極的に行う必要がある。学習する語彙が増え、文法事項がより複雑になっていくが、知っている知識を活用して、自分の思いを書こうとする意欲を育てたい。日頃の授業で、生徒自身の様々な思いを英文で書く、遠足などの行事の思い出を英字新聞で発表するなどの課題を設定し、外国語表現の能力を伸ばすよう努力したい。対話活動などのオーラルコミュニケーション活動、英文を読み解く活動、文法の説明や練習問題などを扱いながら、いかに英文を書く活動の時間を継続的に確保するかが大きな課題となろう。生徒の興味関心を引きつける内容や活動の多様性を検討し、無理せず、授業中の5分間で日記を書かせるなどの活動から始めてみたい。

2. 観点ごとの考察

(1) 言語や文化についての知識・理解に関する問題について

- 1学年ー・問2は正答率は概ね高かった。be動詞を使った疑問文に一般動詞で答える誤答は少なかったが、絵が表している状況を正確に理解することができず、誤答となる例が多かった。
- ・問3の①では、前文の対話の内容を理解していなかったための誤答が目立った。
- ・問4では、否定文や三人称単数現在形の学習があまり定着していないことがわかった。否定文の作り方や単語の意味など基本的な事柄について、繰り返し学習していく必要がある。英語での簡単なやりとりをする中で、会話の流れを理解させたい。
- ・問5では、発音はできるが、発音と正しい綴りとの関係が十分に理解できていないことがわかった。音素についての学習について工夫が必要だと思われる。
- ・問6のaでは、冠詞の使い方の誤りのための誤答が目立った。

- 2 学年－・問2では、発音と綴りとの関係をより学習する必要があると考えられる。
 - ・問3のaでは、whose と who の用法の違いやその他の疑問詞表現の区別を、授業内の対話活動などで身につけさせたい。c、eでは、前後の意味の読み取りや動詞、助動詞の意味の定着が十分でないことがわかった。助動詞に関しては、授業の中で依頼、勧誘、提案などの表現を使用する場面を積極的に設け、定着を図りたい。
 - ・問4のeでは、what kind of +名詞の文に慣れていないための誤答が多かった。疑問詞を使った文の定着を図りたい。
- 3 学年－・問2では、意味は理解できているが、それを正しく綴ることができていない。動詞や名詞を状況に合わせて活用することができていない。現在完了形、過去形、複数形など、様々な使用場面を通して定着を図りたい。
 - ・問3では、something to drink という不定詞の形容詞的用法が身につけていないための誤答が目立った。
 - ・問4のcでは、an interesting book written in English のように、分詞による後置修飾の理解が不十分なための誤答が目立った。日本語と英語の語順の違いを理解できるような活動を工夫したい。

(2) 外国語理解の能力に関する問題について

- 1 学年－・問1では、絵を見ないで選択肢だけを読んで答えているのではないかと推測される誤答もあった。
 - ・問7のbでは、代名詞が指しているものを確認しながら文章を読み進めていく練習などが必要であることがわかった。
 - ・問8では、英文の内容理解が正確にできるよう、まとまった英文を読む機会を設け、長文に慣れる練習が必要であることがわかった。
 - ・聞き取り問題では、単語レベルの聞き取りは十分にできていることがわかった。情報量が多くなった場合でも、要点を聞き取る練習を繰り返したい。
- 2 学年－・問1のbでは、場所を示す前置詞の適切な使い方の定着を図る必要があることがわかった。
 - ・問5は、読み取った情報を整理し、別の英文で表す統合的な能力を診断する問題であった。パラフレーズすることは、実際の英語使用場面ではよくあることである。1つの物事を表現するには複数の表現方法があることを学び、生徒のより高い英語運用能力の育成を図りたい。
 - ・問7では、文章内の登場人物が4名おり、その話の内容を整理して読む力が必要であったため、全体的に正答率が低かった。英問英答の問題の正答率が低かった。教科書の文章の紹介の仕方の工夫、パッセージリーディングなど、リーディング活動の工夫が必要であると考えられる。
 - ・聞き取り問題では、問題1のbは概ね理解できていたが、aの正答率が若干低かった。場所を表す前置詞の定着が十分ではないと思われる。aでは will や tomorrow、bでは left や right を聞き取れなかったようである。ポイントとなる語を聞き取って、会話の流れをつかむ力を育てたい。問題4は正答率が低かった。これは、ある程度まとまった英文を細部まで聞き取る練習が不十分であったことが理由であると考えられる。
- 3 学年－・問5では、英語で得た情報を整理する力が求められる。教科書やALTが作る英文などで得た情報を、生徒自身の表現で言い換えたり、まとめたりする活動を展開したい。
 - ・問6は、英文の内容を理解し、適切な絵やグラフを選ぶ問題である。英文だけでは得られない情報を、図やグラフを見ながら読み進める活動も授業に取り入れたい。
 - ・問7は、昨年度よりも文章が長く、問題数も増えたが、比較的正答率は高かった。文章の内容を読み取り、概要や話者の意図を理解する力をより伸ばすよう指導していき

たい。特に、Cでは正答率の低さが目立った。空欄の前後の内容や本文全体の流れを十分に理解できなかったことが理由と考えられる。

- ・聞き取り問題では、問題1ではほぼ100%の正答率であり、基本的な聞き取りの力は育成されていると考えられる。問題4の正答率が低く、無答も多かった。英文の内容をよく理解できず、ヒントとなる日本語から答えを推測したと思われる誤答が目立った。

(3) 外国語表現の能力に関する問題について

- 1学年ー・問9・10では、何か書こうと努力する生徒が多く、無答率が2、3年生よりも低かった。ただし、正しい綴りで書くことが十分とはいえない。
 - ・問10では、三人称単数現在のsが抜けたり、be動詞と一般動詞を同時に使用したり、冠詞の用法を間違えたりする誤答が多かった。
- 2学年ー・問8は正答率が低く、無答も多かった。部分英作文であったが、使用頻度の高い表現をスパイラルで使用する活動を取り入れたい。
 - ・問9は、「自分の大切なもの」を発表するという「自己表現」の基本的な問題であったが、正答率は低かった。複数形や三人称単数現在、所有格の間違いによる誤答も多かった。また、綴りの間違いも多かった。文章の構成を考え、理論的に説明する機会を繰り返し授業で設定したい。
- 3学年ー・問8では、自分なりに工夫をした解答も見られたが、全体的に正答率が低く、無答も多かった。
 - ・問9では、友だちの依頼に答える問題だったが、つながりのある英文を書くことが難しかったと思われる。誤答の中には、学校を紹介するという問題の意図を理解していないものが多かった。題材を設定し、まとまりのある英作文を書かせる時間を多く確保し、その内容にふさわしい英文を書く力の育成を図りたい。3行程度のトピック・ライティングのような活動から始め、文章をより多く、より豊かな内容を書くことができるような指導を継続させたい。

3. 指導にあたって

平成26年度の学習診断テストの結果を分析して、学習指導の課題として見えてくることと、その改善のための指導の留意点を観点別に記したい。

(1) 言語や文化についての知識・理解

語彙の指導については、単語テストや宿題などで単語を書く作業は各学校で実施しているが、定着率は高くはないようである。例年同様、どの学年でも音声では理解できているが、正しく綴ることができるという反省があった。フォニックス指導は3年間を通した指導が必要だと思われる。音読活動を通して、語彙を増やし語順により慣れ親しんでいく活動の継続も必要である。語彙は、ただ単なる暗記だけでは一時的に記憶されるだけである。聞くこと、読むこと、書くことにより、頻繁に単語に触れることで定着していくと考えられる。また、基本文型の語順が正確に身につけていないこともうかがえる。疑問詞＋名詞の語順は、1年生のみならず3年生でも定着していない。文法を身につけるためにも、既習の文法事項や単語を繰り返し利用しながら、自分の身の回りのことなどを表現・理解するコミュニケーション活動に繰り返し取り組めるようなスパイラルな学習が必要である。

(2) 外国語理解の能力

絵やグラフ、メールなど、実際の場面で使われる説明文や対話文などを出題した。読み取りについての問題では、英文の量が長くなくても情報が複雑になると、細かいところまで読み取ることができていなかった。長文読解問題では、時間内に素早く内容を細部まで読みとることができていなかった。このような読解の技術は、日頃の練習が必要だと思われる。教科書を用いた内容理解の授業では、1つのLessonをA、B、Cと短く分割して読む授業が一般的かと思われるが、教科書の英文だけでなく、川崎

市総合教育センターのホームページにあるAL Tが書いた素材などを活用して、初めて読むある程度まとまった英文の内容を把握させる活動を取り入れたい。その際、いつ・どこで・だれが・どうした、といった内容のあらすじを要約させたり、時間の流れにそって話を再構成させるstory retellingの活動も有効であろう。

聞き取りテストでは、文章が長くなると情報を整理して聞き取ることが難しくなるものである。日頃から積極的に教師やAL Tが英語で生徒に身近な話題で語りかけたり、AL Tが短いスピーチをし、その概要をまとめるなど、細部はわからなくとも概要をつかむ活動を繰り返し行い、今回の診断テストのようなまとまった英文の内容の概要を理解する力を伸ばすような活動を継続したい。

(3) 外国語表現の能力

英作文の問題として、重要なイディオムや文法事項を確認する部分英作文の問題と課題にあった内容の文を書く自由度の高い問題を出題した。どの学年も、正答率はけっして高くはなく、学年が上がるほど無答率が上がっている。中下位群の正答率の低さが目立った。一方で何とか表現しようとする意欲が見られた点は評価できる。

持っている知識と英語で表現できることの差が大きいため、英語で自分が言いたいことを作文することは生徒にとって難易度が高い。頭に浮かんだ日本語を学習した英語に訳してから書くためには、日頃から思ったことを書く訓練が必要である。生徒が書いた文章を教師が添削する作業は、生徒の書く力の向上にはあまり影響しないという研究結果もあるので、添削に時間を割くことなく、積極的に書く時間を設定したい。例えば、週の初めの授業では週末のできごとを5分間で作文するなどの活動を継続してみたい。また、学年に応じて生徒が書きたいと思うであろうトピックを設定し、辞書を片手に悩みながら書く活動も意義深い。短い英文から始め、徐々に量を増やすなど、継続的に指導したい。

4. 授業改善にむけて

正答率を見てもわかるように、英語を正しく綴ること、文法的に正しい英文を書くことを苦手とする生徒が多い。2年生では24%、3年生では30%の生徒が無答だった。学習指導要領が変わり、授業時数は週4時間となったが、4技能のバランスが良いとはいえない状態であると考えられる。教科書の文章の音読ができて、内容を理解していることにはならない。文法を理解しても、適切な場面や状況で使い分けができることにはならない。週4時間の授業の中身は、教師から生徒への説明に費やす時間が多くなり、実際の言語使用場面に近い設定で、生徒が英語を使用する機会が少ないのではないかと考えられる。

生徒の主体的な学びを導くためには、「わかる」「できる」といった小さな達成感の積み重ねが大切である。そのためには、input→intake→outputの流れを授業の中に丁寧に組み込んでいく必要がある。十分なinput活動があつてこそ、生徒はそれを理解し、自分の中に取り込み、活用していくことができる。しかし、input活動が多すぎて、output活動まで行かないことも多いのではないかと考えられる。outputの準備をする過程でinputされることも少なくない。さらに、生徒の発表から教師の指導が十分ではない部分を見取ることができる。「話すこと」「書くこと」の発表活動を繰り返すことで、正確さ、流暢さが向上するような仕組みを確立していきたい。また、英語はコミュニケーションツールの学習であるので、AL Tに向けて、夏休みの思い出や川崎市のおすすめの場所を紹介する原稿を書いたり、修学旅行後に京都で体験したことを、写真などを添えて掲示物にしたり、英語で書く必然性を設定するのも効果的である。また、修学旅行中に、外国人観光客に「あなたの住んでいる町に寿司屋はあるか。」「あなたの家にある日本製品は何か。」など、日本には知らないことができない、外国の中の日本を知る質問をするなど、英語を使う必然性の高い課題を設定するのも効果的である。その際、協働的な学習は生徒のコミュニケーション意欲を促し、伝え合い分かり合う達成感も感じさせることができる。生徒の「伝えたい」「わかりたい」というコミュニケーションへの意欲を高めることのできるような興味深い話題や場面を設定し、多様な活動方法を開発し、実践していきたい。

英語の授業は英語で行うことが求められている中で、生徒の興味関心を高めながら、語彙力をつけ、言語運用能力を高めるのは簡単な作業ではない。川崎市学習診断テストの結果から読み取れるものを参考に、教科内で話し合い、3年間を見通して4技能をバランスよく育てていくために CAN-DO リスト作成から始めていきたい。